

ワクチンについて

ワクチン接種の時期に入ってきました。家畜自衛防疫事業では9種類のワクチンを扱っております。

ワクチンの選択に参考にさせていただければ幸いです。



1 ウイルスワクチンの種類について

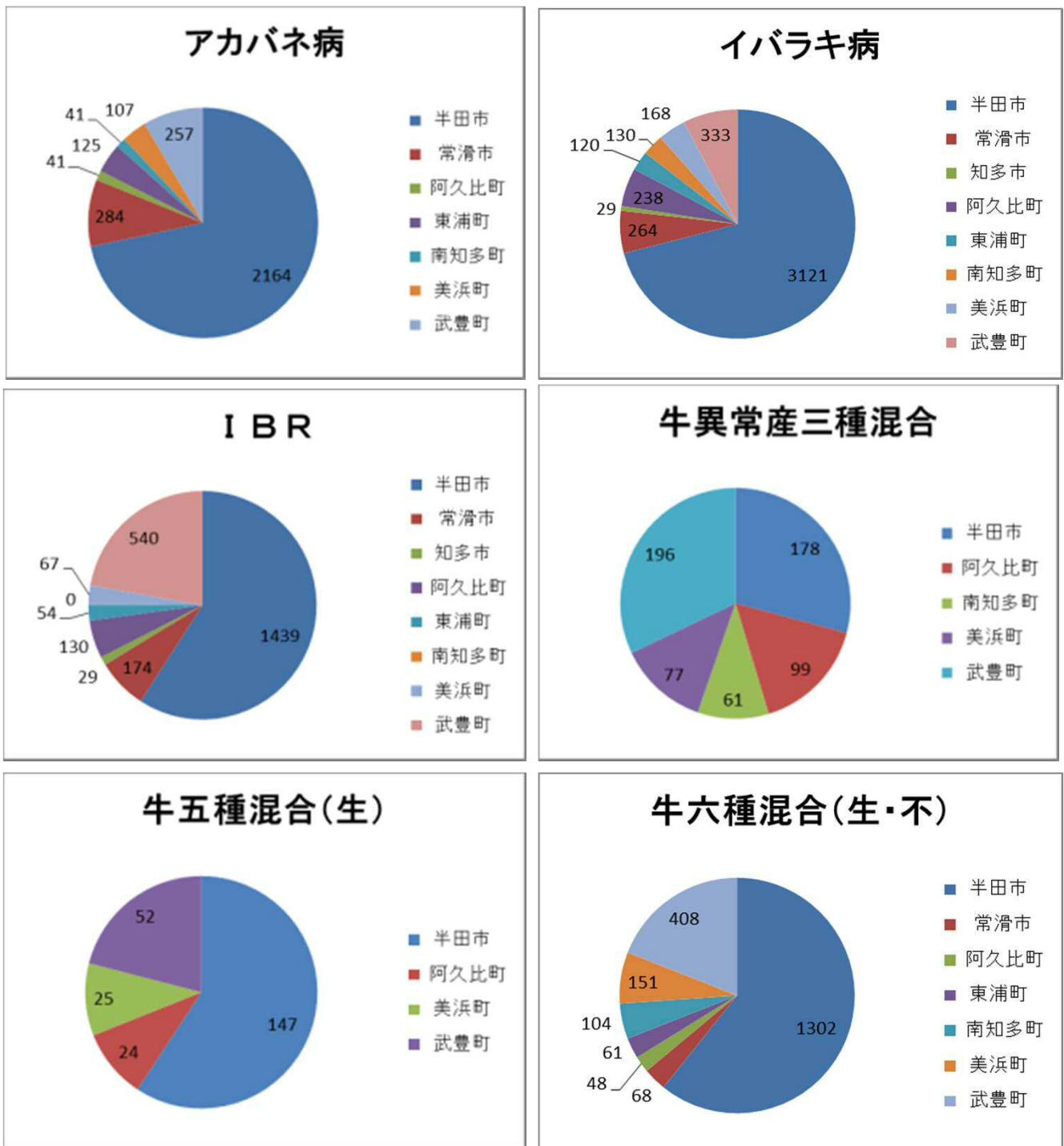
種類	商品名	主成分
アカバネ病(生)	省略	アカバネウイルス
イバラキ病(生)	省略	イバラキウイルス
牛伝染性鼻気管炎(IBR)(生)	省略	IBRウイルス
牛異常産三種混合(不活化)	省略	アカバネ、チュウザン、アイノウイルス
牛五種混合(生)	牛5種混合生ワクチン、ボビエヌテクト5	IBR、牛ウイルス性下痢粘膜病(BVD-MD)、牛パラインフルエンザ、牛RS、牛アデノウイルス
牛五種混合(不活化)	キャトルウィン5K、ストックガード5、ボビバック5、ボビバックB5	IBR、BVD-MD2価、牛パラインフルエンザ、牛RSウイルス
牛六種混合(生) <u>↑今年度から追加されました!</u>	カーフウィン6	IBR、BVD-MD2価、牛パラインフルエンザ、牛RS、牛アデノウイルス
牛六種混合(生・不活化)	キャトルウィン6	IBR、BVD-MD2価(不活化)、牛パラインフルエンザ、牛RS、牛アデノウイルス
ボツリヌス	キャトルウィンBO2	クロストリジウム・ボツリヌスC・D型菌

2 家畜自衛防疫事業について

畜産農家の自主的な防疫措置の定着を図り、伝染病疾病の発生予防と生産性向上を目的とした事業です。

アカバネ病と異常産三種混合ワクチンのみ国からの補助があります。ワクチンの詳しい料金等はお問い合わせください。

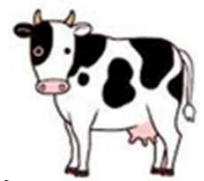
3 平成27年度自衛防疫事業で接種した6種類の市町別頭数



前頁のグラフは、各ワクチンが市町別で接種されている頭数を表したものです。多く接種されているワクチンの種類は、イバラキ病、次いでアカバネ病、IBR、牛六種混合ワクチンとなっています。牛五種混合ワクチン(生)は主に肉用牛で接種されています。異常産三種以外のワクチンは半田市で最も多くの頭数に接種されており、異常産三種は武豊町で多いです。

下表は管内市町で飼養されている頭数(H27定期報告書参照)のうち、接種されている各ワクチンの接種率(%)です。接種頭数が最も多い半田市でも30%に満たない割合です。管内全体を見ても、飼育頭数に比べて自衛防疫事業でワクチン接種している頭数はかなり少ないですが、事業以外でも各自で接種されている農場はあると思います。

自衛防疫事業でワクチン接種を希望される方は、かかりつけの獣医師もしくは市町の畜産担当にご相談してください。



市町別ワクチン接種率(% = 接種頭数/各市町飼養頭数 × 100)

	アカバネ病	イバラキ病	IBR	牛異常産 三種混合	牛五種混 合(生)	牛六種混 合(生・不)
半田市	20	29	13	2	1	12
常滑市	37	34	22	0	0	9
東海市	0	0	0	0	0	0
大府市	0	0	0	0	0	0
知多市	0	100	100	0	0	0
阿久比町	3	20	11	8	2	4
東浦町	6	5	2	0	0	3
南知多町	3	10	0	5	0	8
美浜町	11	18	7	8	3	16
武豊町	9	12	19	7	2	15
合計	14	20	11	3	1	10

※合計は接種頭数/管内飼育頭数 × 100

4 ウイルスの動向について

年々暖かくなっているため、徐々に疾病の広がりがみられています。例えば牛流行熱は、沖縄県の一部地域のみでの発生で、九州以北では24年間発生がありませんでしたが、昨年秋に鹿児島県で発生がありました。また近年、これまで日本で確認されていなかったピートンウイルス、サシュペリウイルス等の牛の異常産に関与すると考えられているウイルスが国内で確認されています。異常産を起こすウイルスや牛流行熱、イバラキ病等の原因ウイルスは吸血昆虫により広まるため、多大な被害を及ぼします。地域で積極的に接種し予防していただきたいです。

今後ワクチン接種の追加変更する時がありましたら参考にしてください。

補足ですが、下の表は毎年調査しているウイルス抗体価の動きをまとめたものです。抗体の陽転と発生の相関関係は認められず、近年異常産疾病は全く発生がありませんが、万が一に備えてワクチン接種は引き続き行っていただきたいです。



ウイルス抗体調査により愛知県内で過去陽転があった疾病及び年

アカバネ病	イバラキ病	アイノウイルス病
平成20年(2008)	平成14年(2002)	平成10年(1998)
平成10年(1998)	平成9年(1997)	
昭和60年(1985)	昭和62年(1987)	

愛知県内で異常産の発生があった疾病の年、戸数及び頭数

アカバネ病	愛知県	全国
平成13年(2001)	1戸1頭	7戸7頭
平成11年(1999)	8戸10頭	503戸578頭
平成10年(1998)	4戸13頭	565戸702頭

5 ワクチンについての豆知識

● ワクチン取扱上の注意

熱、直射日光に対して弱いため、2～10℃の冷暗所保存が原則。
乾燥生ワクチン溶解した後は、アイスボックスに入れて当日中に使用すること。

● ワクチン接種による免疫発現時期は？

- ・1回接種の場合：2週間後
- ・2回接種の場合：2回接種後の1週間後
- ・初年度2回接種→翌年1回接種の場合：1週間後



● 免疫の持続期間は？

ワクチンの種類により異なり、約6か月～3年間と様々。

● 導入牛のワクチン接種時期は？

移動前に接種するのが基本だが、移動後は4日以降に接種するのが望ましい。

● ワクチンの接種間隔は？

幅がある。

(ex.)4週間隔で2回接種の場合

2回目の接種を3～12週後の期間に実施すればO.K.



ただし、アカバネ病ワクチンとイバラキ病生ワクチン、牛流行熱生ワクチンを同時接種すると効果が抑制されるので、2週間以上の間隔をあけて注射すること。

● ワクチン効果を阻害する要因は？

高い移行抗体、ストレス、栄養不良、複数のワクチンの同時接種、不適切なワクチンの保存管理と溶解後の取り扱い、ワクチンの接種失宜、副腎皮質ホルモン剤等の免疫抑制薬剤の投与等。